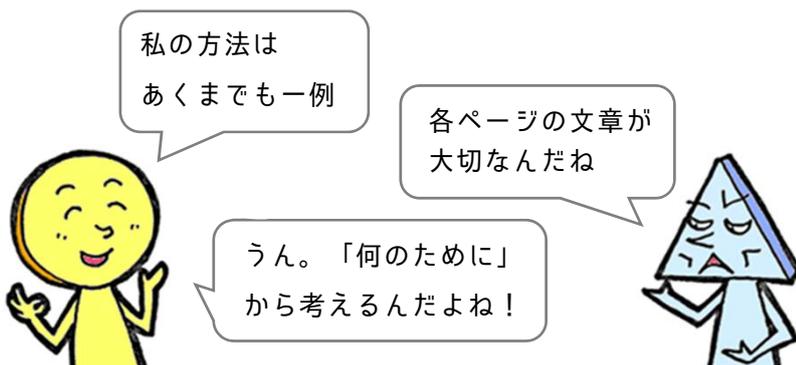


授業改善のポイント

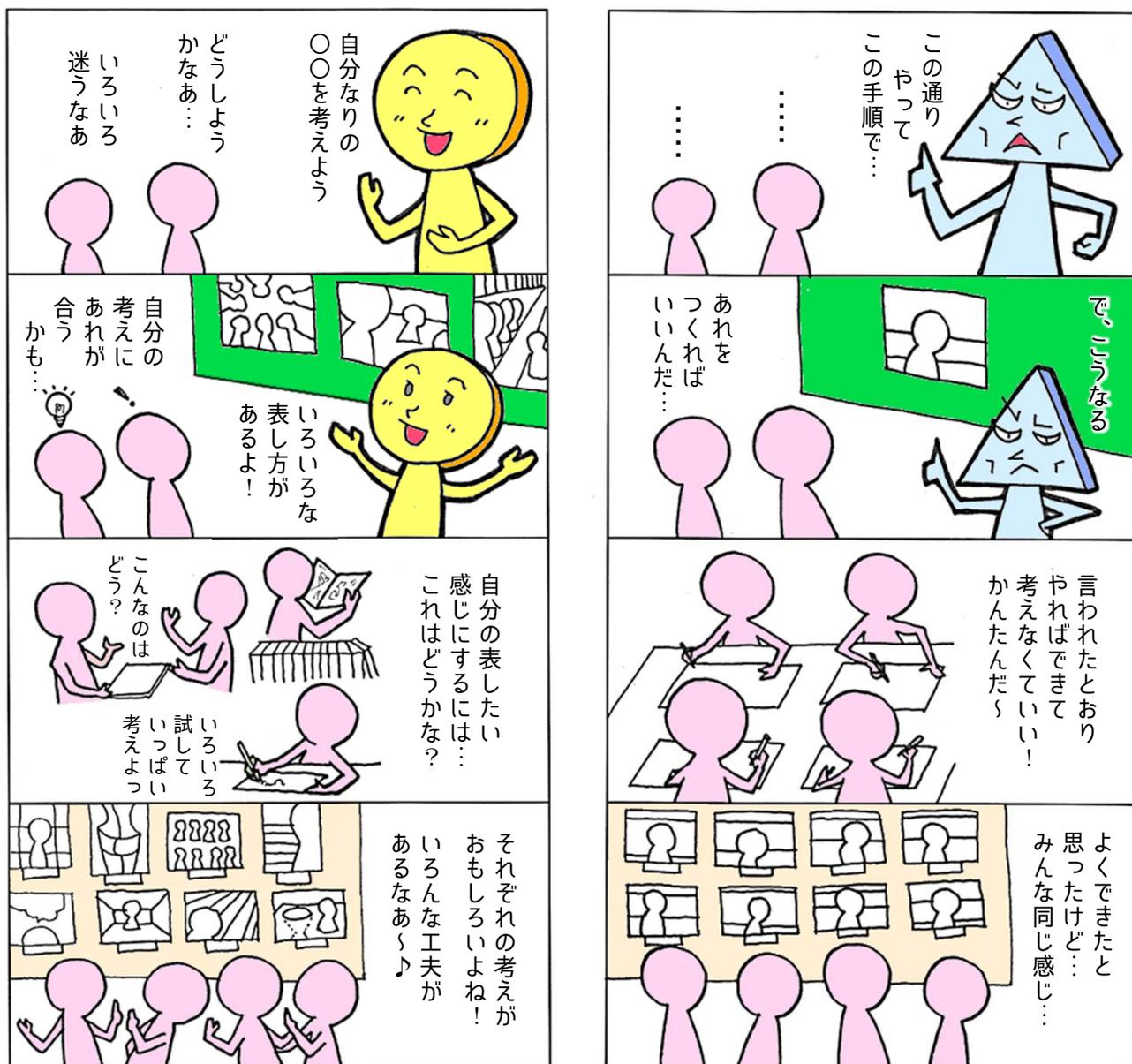
あたりまえを
あたりまえに

- | | |
|---------------------------|-------|
| ① 育成する資質・能力を明確にする | 指導計画 |
| ② 学習のねらいから活動を考える | 指導計画 |
| ③ 子どもの思いや願いを大切にすること | 指導計画 |
| ④ 意欲と見通しをもてるよう子どもの気づきを生かす | 導入 |
| ⑤ 造形的な視点で子どもの考えを深める | 導入 展開 |
| ⑥ 活動の時間を確保する | 導入 展開 |
| ⑦ 子どもの思いを想像しながら言葉を掛ける | 展開 |
| ⑧ 授業で学んだことを確認する | 終末 |
| ⑨ 子どもの思考の過程を見取る | 評価 |
| ⑩ 学びを支える環境を整える | 環境整備 |



2017

大切なのは作品のできばえ？

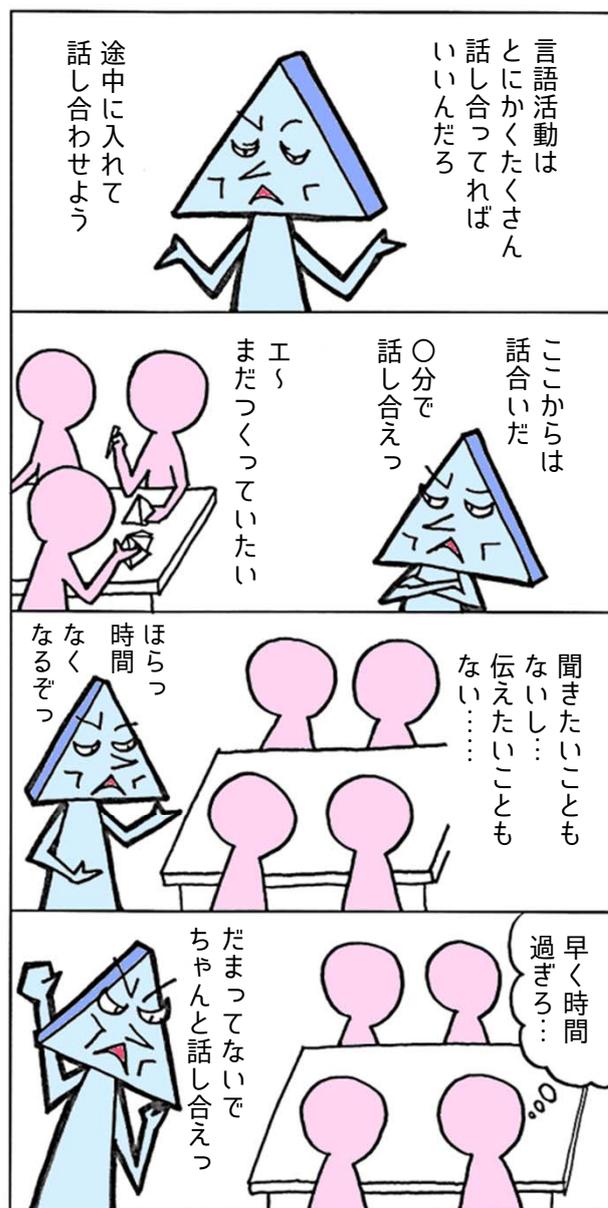


① 育成する資質・能力を明確にする

- ・「何のために学ぶのか」という学習の意義を子どもと共有しながら、授業や題材の改善に努めます。作品のできばえだけを重視するのではなく、育成する資質・能力は何なのか、それをどのようにして高めていくかを考えることが大切です。
- ・子どもが、形や色などの造形的な視点を基に考えを深めることで、自分にとっての意味や価値をつくりだすことができるようになります。
- ・図画工作科や美術科の学習は、自ら課題を決め、課題を解決するプロセスを重視します。
- ・全教育活動を通して“「問い」を発する子ども^{*}”の育成を目指します。

* H23～秋田県学校教育の指針 冊子版 重点版 参照

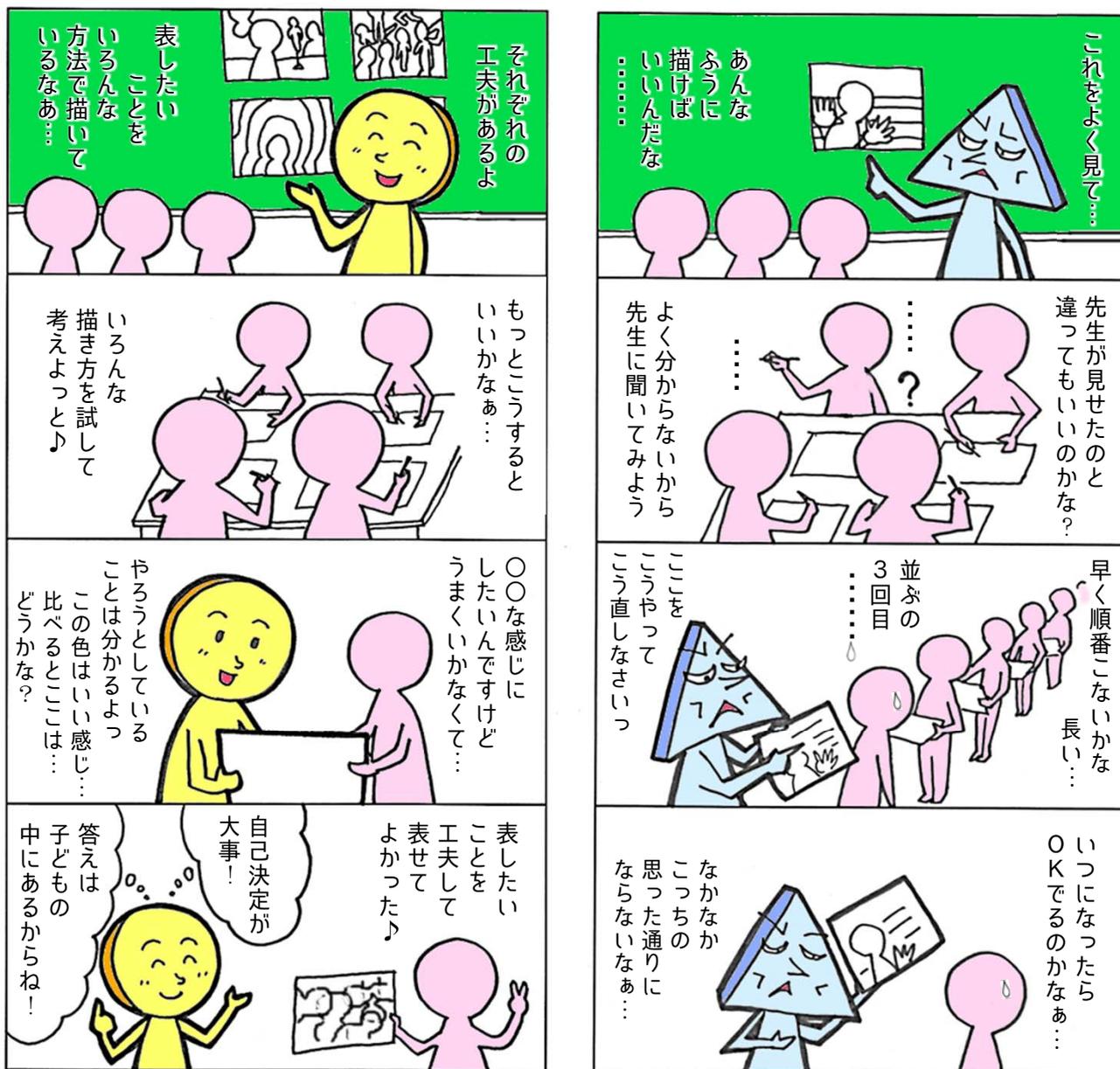
その活動は何のため？



② 学習のねらいから活動を考える

- ・「学習のねらいー学習課題・めあてー学習活動ー振り返り等」に整合性をもたせます。
- ・表現や鑑賞の能力が相互に関連して働くよう、造形的な視点で対象や事象を捉える場を設定します。
- ・言語活動は、それ自体が目的ではなく、思考力・判断力・表現力等を高めるための手立てです。何のためかを考えて、題材の全体計画に適切に位置付けます。形や色などの造形的な視点で考えを深められるようにすることで学習のねらいに迫ります。
- ・題材名は、活動のイメージが膨らみ、意欲を喚起するものにします。

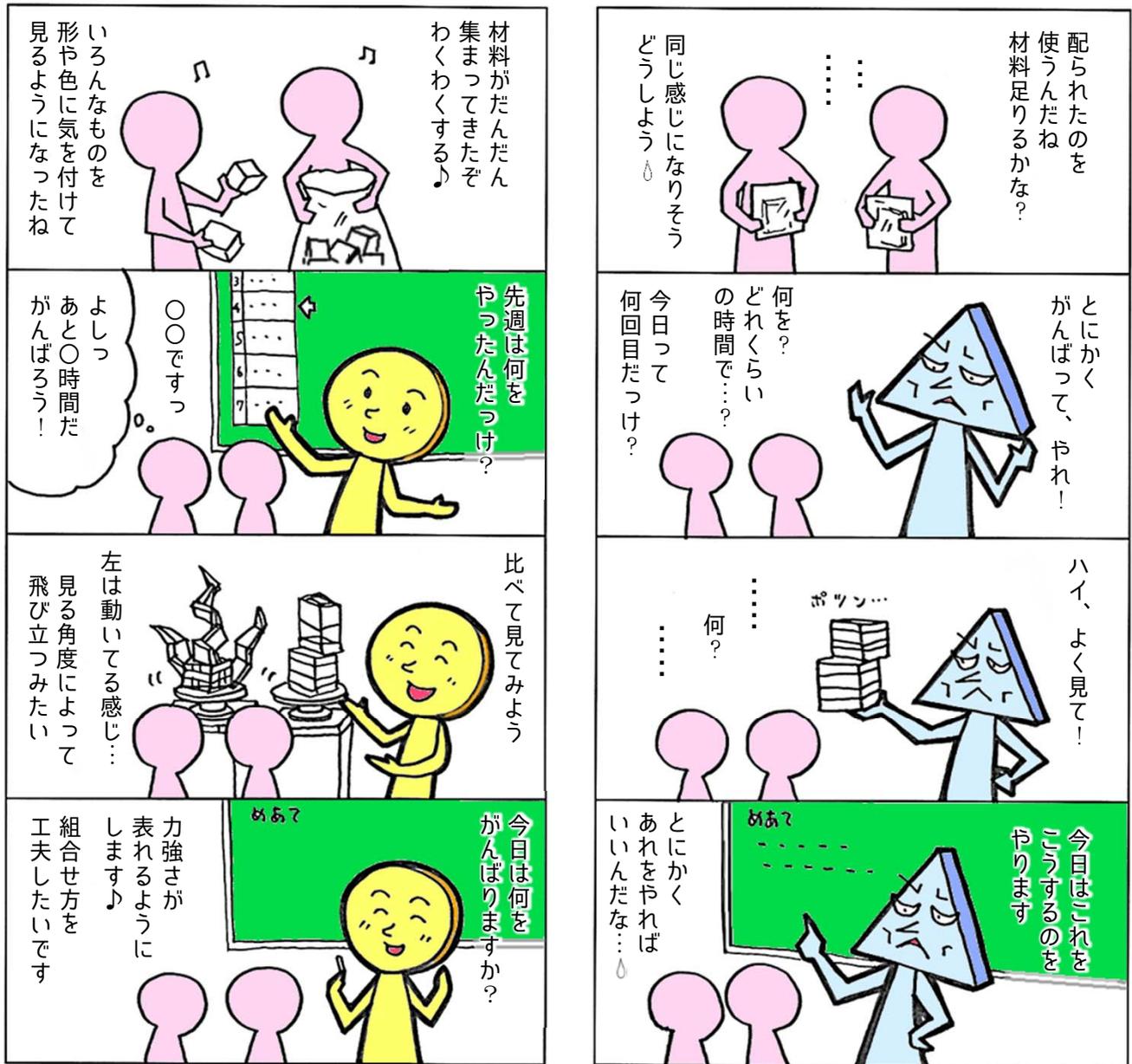
だれの作品？ 答えはどこに？



③ 子どもの思いや願いを大切に

- ・一人一人の子どもの中に自分の表したい思いが育まれることが大切です。
- ・材料は、子どもの活動する姿を思い浮かべながら、学習のねらいに合わせて分量や扱いを考えます。
- ・自分の感覚や行為を通して、活動や表したいことを思い付くように、じっくりと材料と向き合うなど、試行錯誤を繰り返して表現できる時間と場を確保します。思いを膨らませるためには、表現方法をいろいろと試して全体で共有できる場の設定も有効です。
- ・教師の価値観に合わせた画一的な作品を完成させることが目的ではありません。子どもの思いや願いを見取り、共感的に受けとめ、子どもの思いに寄り添った指導を考えます。

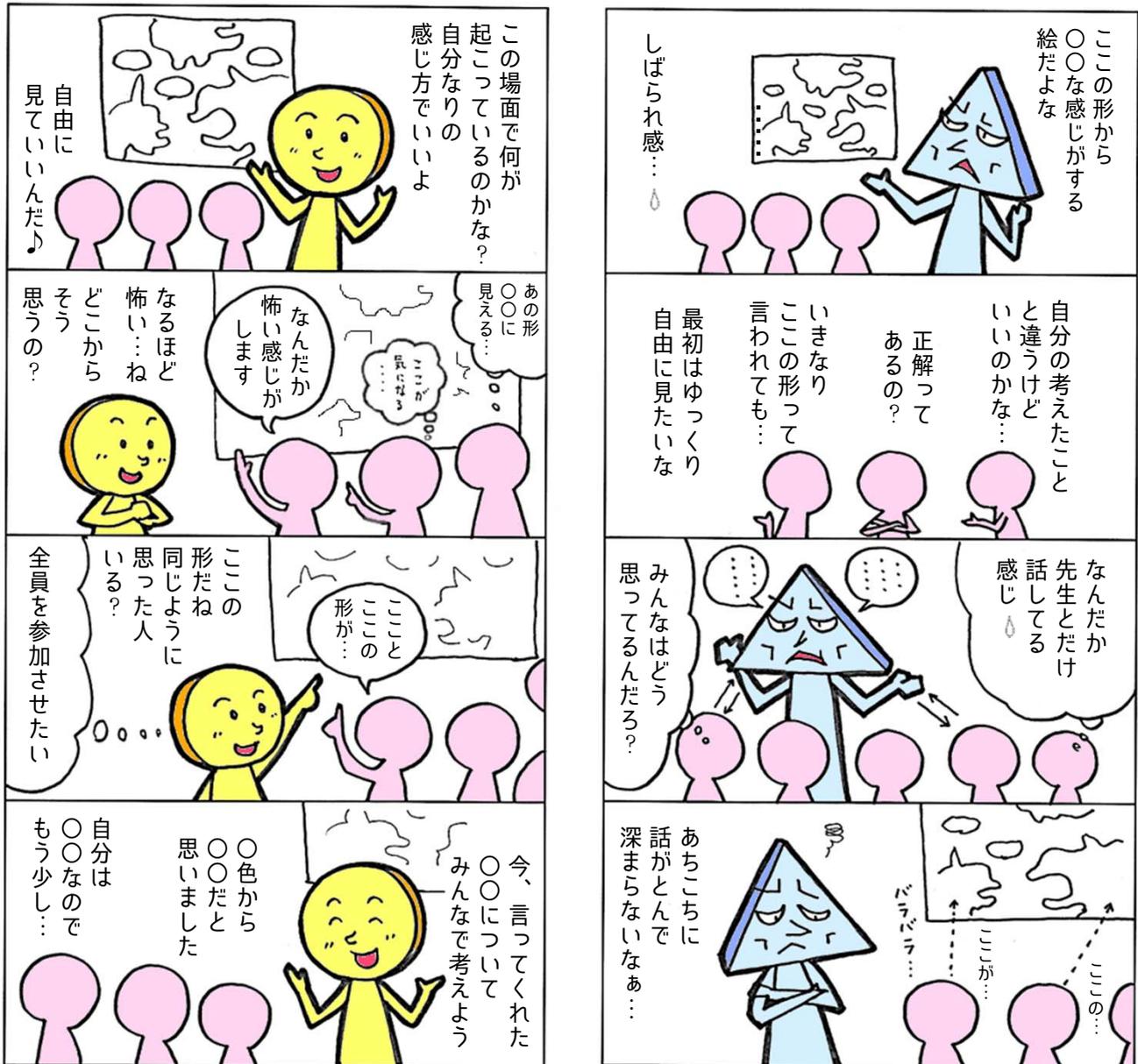
指示のみでいいの？



④ 意欲と見通しをもてるよう子どもの気づきを生かす

- ・子ども自身による材料集めや、見せ方を工夫した参考作品の鑑賞などで、自分なりにイメージをもつことができるようにし、学習への意欲を高めます。
- ・参考作品は、学習のねらいに合わせて子どもの多様な考えを引き出すように提示します。
- ・造形的な視点での気づきを引き出すためには、対象を比較して示すことが有効です。
- ・板書は、できるだけ子どもの言葉を活用し、共につくり上げます。学習活動に必然性が生まれるように学習課題やめあてを示し、本時と全体の活動計画の関連が分かるようにします。

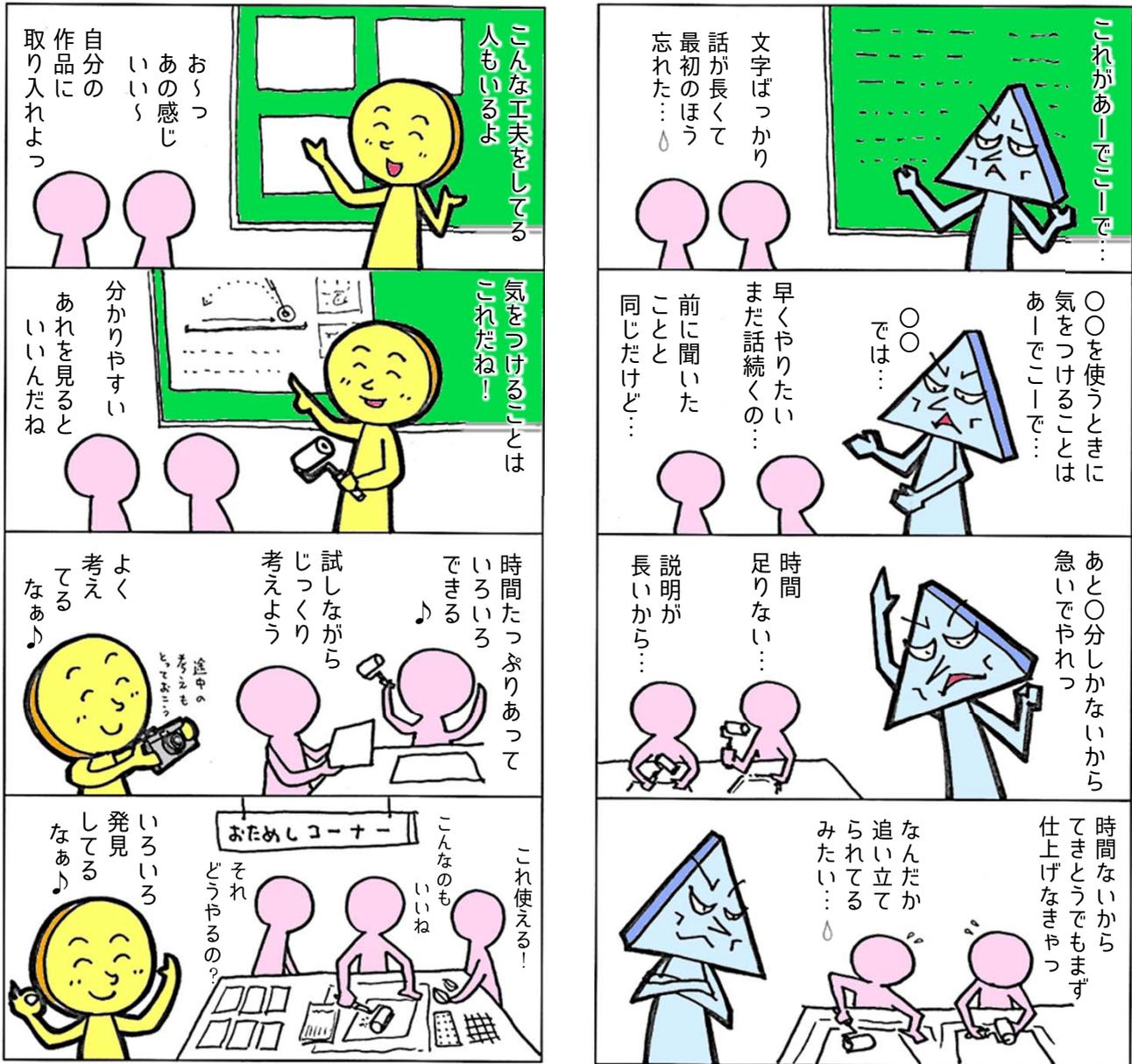
ただ見ればいいのか？



⑤ 造形的な視点で子どもの考えを深める

- ・発言を受容しながら、造形的な視点で整理していき、子どもの気づきを引き出します。
- ・自分の感覚や行為を通して形や色を捉え、自分のイメージをもつことが重要です。大切なのは、子どもが実感できるということです。
- ・鑑賞の授業では、自由な見方や感じ方を保障します。最初から限定的な見方に制限することは、鑑賞の楽しさを奪いかねません。板書は、多様な意見を造形的な視点で比較したり関連付けたりできるようにします。子どもの思考の流れに沿って整理し、論点を焦点化して交流させることで、考えを広げたり深めたりすることができます。

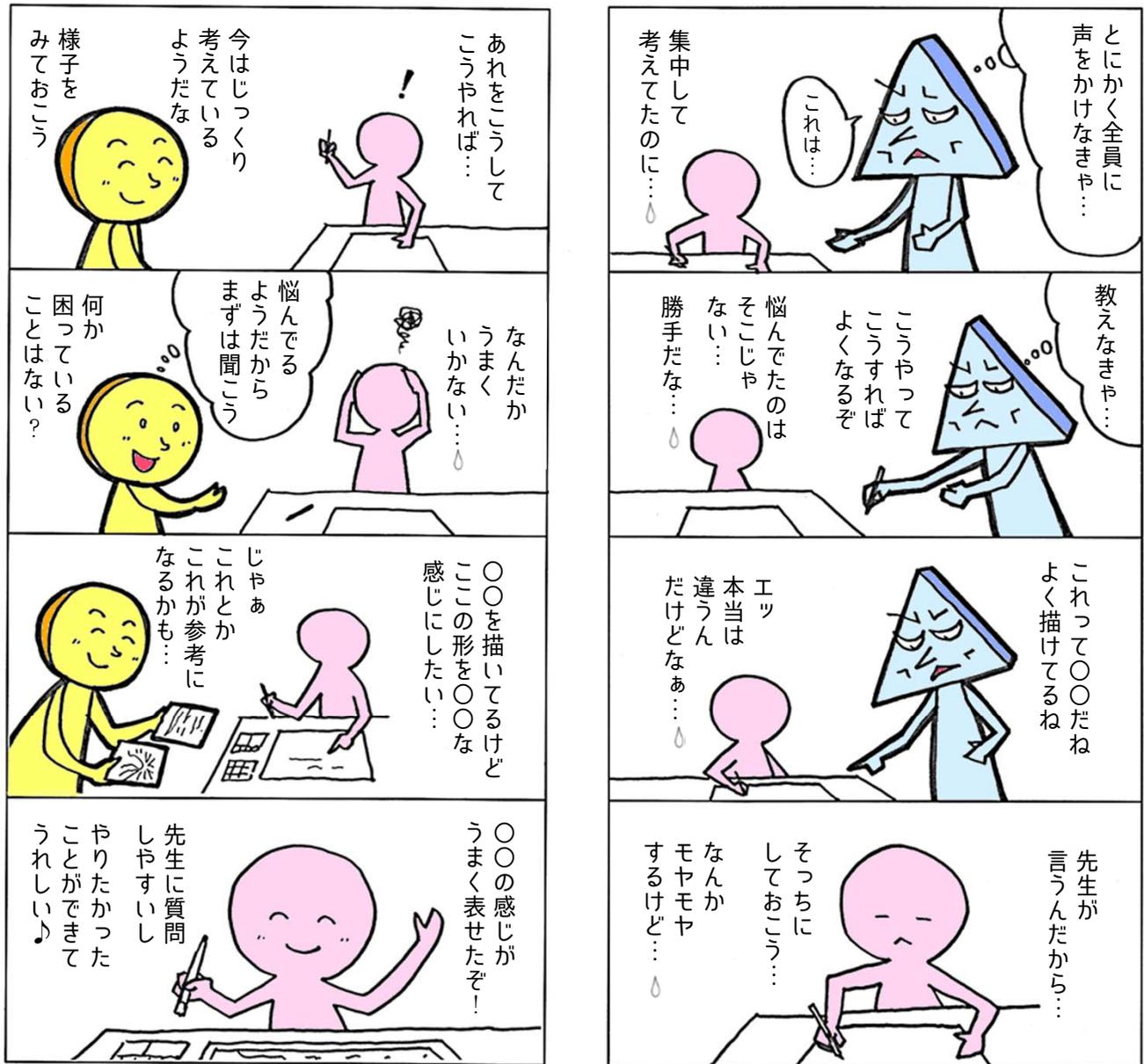
何に時間をかける？



⑥ 活動の時間を確保する

- ・教師が長々と熱弁を振るうほど子どもの気持ちは冷めがちです。特に導入時の説明を吟味し、子どもの活動の時間を十分に確保することが大切です。表現や鑑賞を行きつ戻りつしながら活動に没頭するためには、時間が必要です。
- ・自分でやって自分で確かめ、自分で見付け出す経験は、とても大切です。創造的に技能を発揮するためには、自分の感覚や感じ方を頼りに試行錯誤できる時間が必要です。
- ・必要感や必然性のない話合いを無理に入れるのではなく、自然な交流を大切にして子どもが主体的に考えられるように時間や場を保障します。

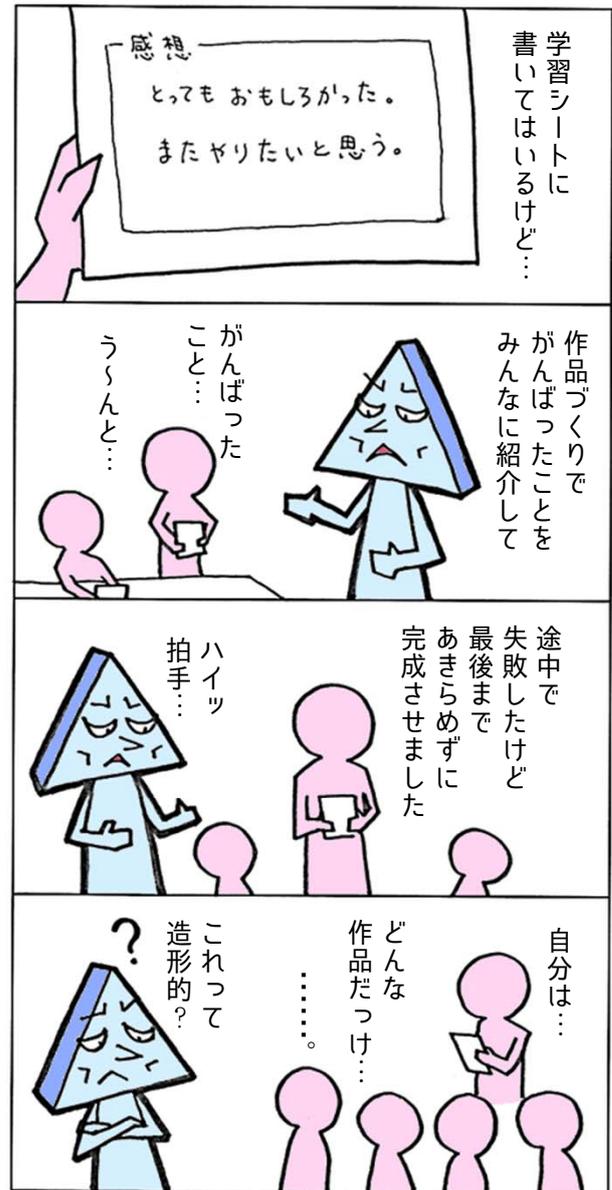
言葉掛けはどのように？



7 子どもの思いを想像しながら言葉を掛ける

- ・学習のねらいと照らし合わせながら、子どもの考えを見取ることが大切です。
- ・子どもが捉えた形や色、イメージなどを手掛かりに、共感したり言葉で補ったりします。
- ・聞くことは、「あなたに興味がある」というメッセージになり、子どもの返答にうなずけば、「あなたのことを認めた」というメッセージになります。
- ・「どんなイメージなの?」「これからどうなるの?」などであれば、子どもの多様な活動状況に対応可能であり、対話のきっかけになります。

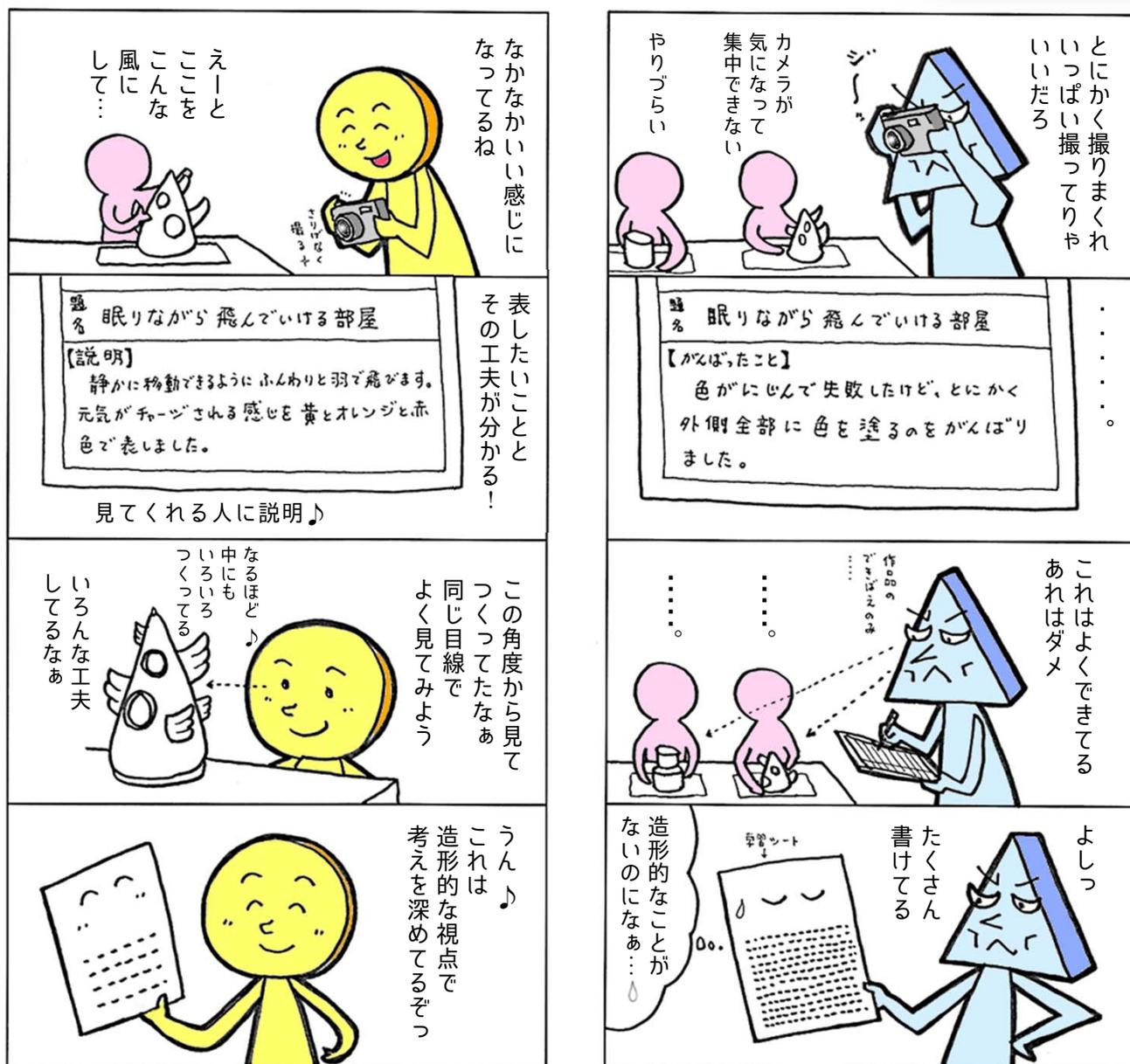
何を振り返るの？



⑧ 授業で学んだことを確認する

- ・学んだことは何かを押さえます。作品ができた、○○をしたなど、活動だけの振り返りにならないように、造形的な視点で自分の活動を確認めたり振り返ったりすることができる場を設定します。
- ・子どもの発表の際には、学びをみんなで共有するために、作品等を見やすく提示することが必要です。
- ・学んだことや高まった能力を自覚できるようにし、その活用についても考えられるようにします。学習シートは、子どもの学びから考えて吟味し、有効に活用できるように作成します。

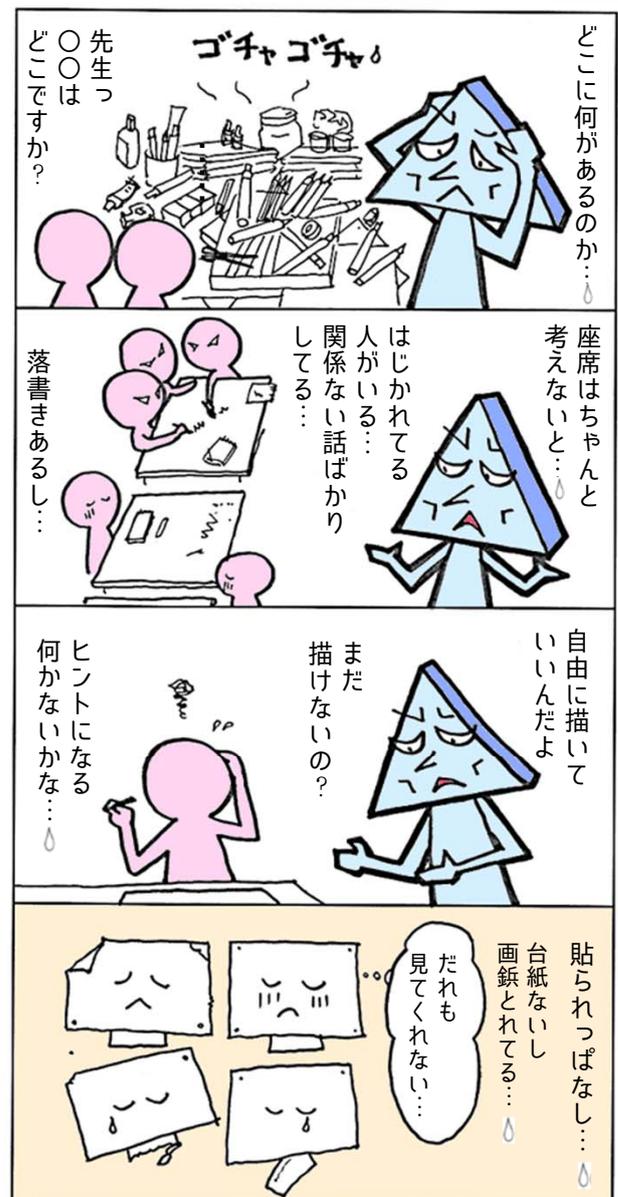
何を見取るの？



⑨ 子どもの思考の過程を見取る

- ・結果だけでなく過程を見取るために、評価用の座席表や名簿に気付いたことを記入し、子どもの活動の様子や途中の工夫を記録しておきます。写真等の活用も有効です。
- ・よさや可能性を積極的に評価することが、自己肯定感の高まりにつながります。
- ・学習のねらいと評価の整合性を図り、評価規準を基に、ねらいを達成した子どもの具体的な姿を多様に考えます。
- ・「この時間には特に発想！」のように重点化を図り、時間内にできる妥当な評価方法を考えます。
- ・作品票の記述を主題と表現の関連についての「説明」とすることで、よさや工夫が分かりやすくなり、見方や感じ方を深めることにつながります。

意欲を高める土台は？



10 学びを支える環境を整える

- ・子どもが思い付いた方法をすぐに試したり、友人の表現方法や材料の使い方を自然に取り入れたりできるようにすることが大切です。
- ・「場の構成」「材料や用具の場所」「机の配置」などは子どもの学習活動を左右します。用具の置き場所一つで全く異なる活動になることがあるので、教室全体の見取り図や板書計画を作成し、子どもの動きを想定しておきます。
- ・図工室や美術室、校内の美的環境づくりを心掛けることは、子どもの感性を高め、鑑賞の学習や表現の学習への意欲を喚起します。
- ・写真などで真剣な活動の様子を合わせて掲示することは、子どものがんばりを認める有効な手立てです。